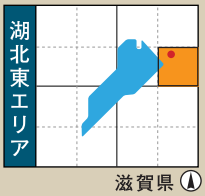
史跡
県指定

茶臼山古墳（ちゃうすやまこふん）

長浜市東上坂町　昭和44年9月12日指定



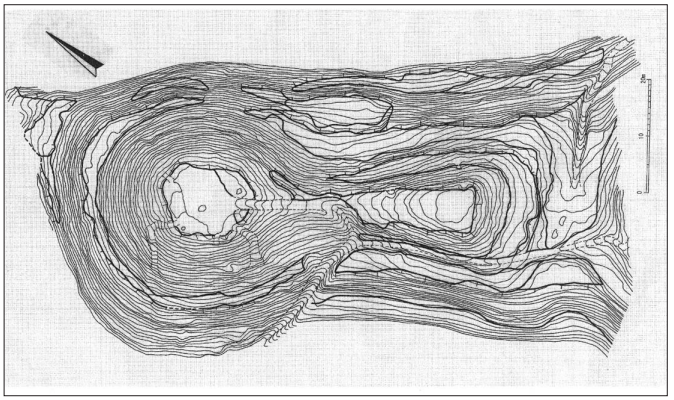
茶臼山古墳は、長浜平野の東に位置する横山丘陵の北先端にあり、湖北地域では最大級の前方後円墳です。姉川と湖北と中京を結ぶ街道が近接する谷の口にあり、水利、交通を掌握した王の墓と考えられます。姉川の合戦の際には、織田軍の砦として利用されました。

当時のできごと	
425年	倭王讃、宗の文帝に朝貢す
5世紀半ば	巨大古墳が築造される
1570年	姉川の合戦 浅井、朝倉連合軍洛中の信長を攻める

茶臼山古墳について

茶臼山古墳は、横山丘陵上に広がる長浜古墳群（横山古墳群）を構成する、全長約91mの前方後円墳です。古墳群中では最大規模で、湖北地域においても古保利古墳群（学習シートNo.037）の西野山古墳（全長約90m）と共に最大規模の古墳です。測量調査以外の調査が行われていないため、詳細については不明ですが、一部に葺石が見られること、前方部と後円部の高さがほぼ等しいことなど、古墳時代中期の特徴を示しています。

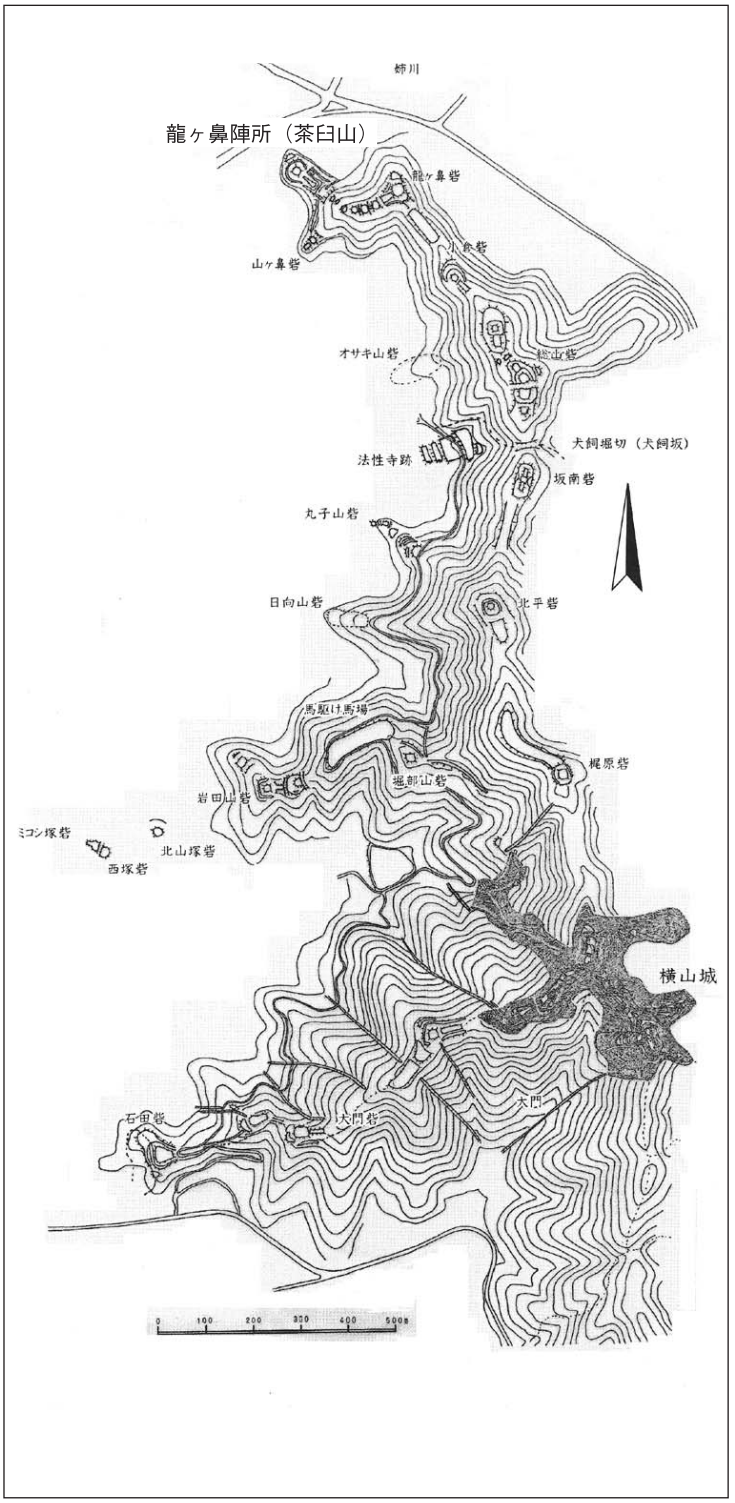
長浜古墳群の所在する横山丘陵は、姉川が山間部を出て平地に流れ出る口にあたり、さらに、湖北（北陸）と中京を結ぶ街道「北国脇往還」がふもとを通る要衝の地にあり、この古墳群に葬られたのは、湖北地方の北部を領域とした古保利古墳群、物部古墳群の王達に対し、湖北南部を領域とした王達の墓域と考えられます。



茶臼山古墳測量図



茶臼山古墳



長浜古墳群と横山城、姉川合戦砦

古墳群と姉川合戦

長浜古墳群は、古墳時代前期から終末期の古墳までを含み、前方後円墳2基（茶臼山古墳・山ヶ鼻古墳）、前方後方墳1基（龍ヶ鼻古墳）、円墳、方墳30基以上で構成される古墳群で、5以上の支群に分かれています。

この古墳群の特徴として、墳丘の形が非常に読みとりにくいことが挙げられます。これは、元亀元年（1570）に織田信長と浅井長政が死闘を繰り広げた、姉川の合戦による影響を受けたためです。

長浜古墳群の所在する尾根の最高部分には、浅井長政が横山城を築き、岐阜から進出する織田軍に備えました。信長軍は、浅井氏の本城小谷城（学習シートNo.034）と横山城の連絡を絶つため、丘陵上に多数の砦を築き、龍ヶ鼻古墳の上に信長本陣を置き、茶臼山古墳の上にも陣を敷きます。この際、古墳の高まりは削り取られ、平らに造成されてしまいます。この地が、軍事的な要衝であることを信長は読みとったのでしょう。姉川の合戦で一応の勝利を収めた信長は、横山城に羽柴秀吉を置き、小谷城を牽制（けんせい）します。

さらに、羽柴秀吉が天下人への道を決定付けた賤ヶ岳の合戦に際しても、秀吉が横山城を改修したことが記録に見えます。

このように、茶臼山古墳を中心とした長浜古墳群からは、時代を超えた歴史を読みとることができます。

関連する文化財

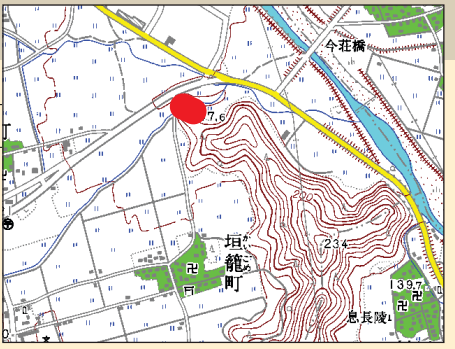
横山古墳群（長浜市）	横山城の所在する尾根に築かれた古墳群。多様な墳丘形態を持つ
古保利古墳群（高月町）	学習シートNo.037
垣籠古墳（長浜市）	学習シートNo.041

もっと深く知りたい

長浜市教育委員会	☎0749-62-4152	長浜市小堀町32
安土城考古博物館	☎0748-46-2424	蒲生郡安土町下豊浦6678

茶臼山古墳へのアクセス

JR北陸本線　長浜駅下車
北陸自動車道　長浜インター



【参考文献】〔近江の遺跡〕（財）滋賀県文化財保護協会　〔前方後円墳集成〕山川出版

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課　平成16年3月